



熊谷市 記者クラブ取材情報

令和3年11月26日発表
担当課:熊谷図書館

タイトル

～作家・森村誠一が選ぶ～第10回くまがや「写真俳句」コンテスト
特選・入選作品の展示及び表彰式

1. 展示期間

令和3年12月14日(火)から12月26日(日)
9時から17時(月曜日は休館日)

表彰式

令和3年12月19日(日) 14時

2. 展示場所

熊谷市立文化センター1階・市民ギャラリー(熊谷市桜木町2-33-2)

表彰式会場

熊谷市立文化センター4階・第一講座室

3. 事業概要

(内容)

熊谷市出身の作家・森村誠一氏が提唱する「写真俳句」を「～作家・森村誠一が選ぶ～くまがや『写真俳句』コンテスト」として平成24年から実施して、今年で10回目となりました。

応募者は、北は北海道から南は九州、年齢は下が6才から上は87才の幅広い年齢層となり、中学生以下のジュニアの部で1,059点、一般の部で862点、合計で1,921点の応募がありました。この中から森村誠一氏、写真俳句連絡協議会及び熊谷市立図書館の選考を経て、特選5作品、入選20作品、入選作品の中から熊谷市を題材にした優秀3作品に熊谷賞が決定しました。

また、入賞作品は、12月1日(水)から熊谷市ホームページ内「WEBくまがや写真俳句館」で掲載します。

4. 特徴やPRポイント

くまがや「写真俳句」コンテストを通じて、「文学のまち」としての熊谷市を全国に発信しています。「写真俳句」の提唱者でもある熊谷市出身の作家・森村誠一氏が選者を務めるほか、賛助作品の提供や特選作品への森村評をしていただくなど、同氏から全面的に御協力をいただいています。

5. その他

主催:熊谷市・熊谷市教育委員会

※資料の有無(有) ・ 無)

担当者 市立熊谷図書館 西村陽子・青木新一・飯島志保

連絡先 048-598-4885

～作家・森村誠一が選ぶ～

第10回くまがや「写真俳句」コンテスト

—特選・入選作品—

「写真俳句」とは、熊谷市出身の作家・森村誠一氏が提唱する、写真と俳句・川柳などを組み合わせた新しい表現手法です。熊谷市では平成24年から～作家・森村誠一が選ぶ～くまがや「写真俳句」コンテストを開催し、今年で10回目となりました。国内では北は北海道から南は九州、また下は6才から上は87才まで、1,921作品の応募をいただきました。この中から森村誠一氏、写真俳句連絡協議会、熊谷市立図書館の選考を経て特選5点、入選20点が決定しました。作品は次のとおり展示します。また「WEBくまがや写真俳句館」にも作品を掲載しています。

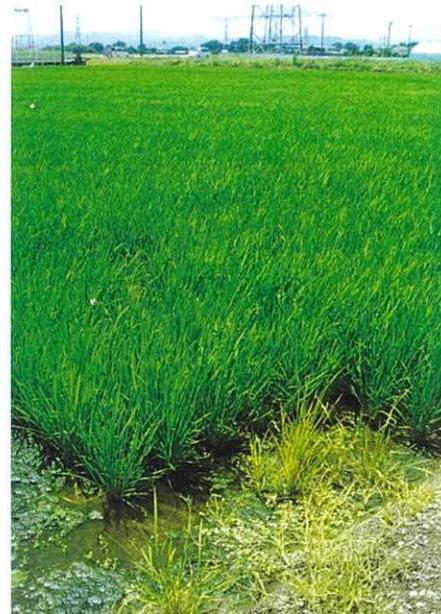
○期間／12月14日（火）～12月26日（日）9：00～17：00

○会場／熊谷市立文化センター1階市民ギャラリー ※月曜日は休館日

【ジュニアの部】

特選

講評は森村誠一氏よりいただいています。



春風に背中押される意気地なし 鈴木ふゆ
講評：春深し行く宛もなく漂うて

目指す先同じと示す雲の腹 松崎たか子
講評：雲の流れに揺蕩う未来がある

夏の田やおにぎりまでの長い道 藤倉大智
講評：目に見える状況だけでなく、そこから始まる物語が表現されている



秋冷やむすんでひらいてまた来年 高田ふみ子
講評：来夏も咲く、思い続けて明日は見える

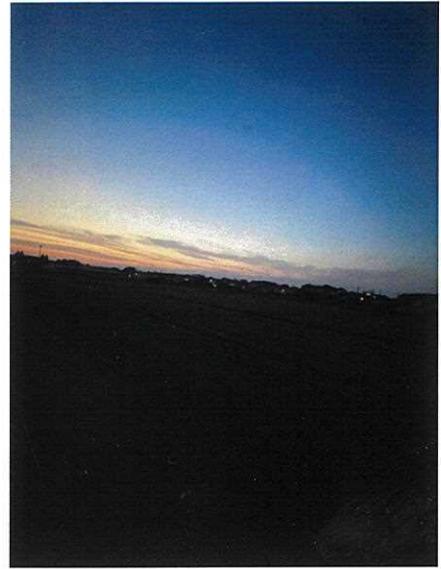
春隣り体重計にこそと乗り 川島幸子
講評：風が光る、不機嫌な重ね着を解く日となる

〈熊谷賞〉

親元をはなれて歩む春の友
鵜飼恵理



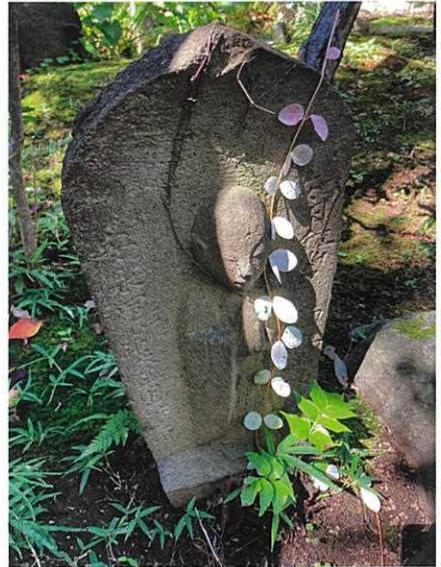
大丈夫リセットしてさ次の日へ
原田鈴菜



秋風に運ばれ香る金木犀
松本渚咲



葛一縷袈裟の模様を足しにけり
田中学



干し柿の影も楽しむ待ち時間 杉田絵里



汗流し6年越しの恩返し 渡辺光弥

入 選

【一般の部】



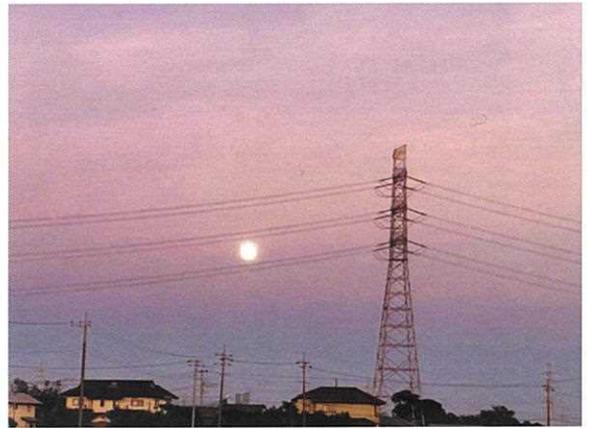
泣いていい落ち込んでいい今日だけは 松浦直美



夏の海行ったつもりの琥珀糖 平井智菜



君のいないピントも合わない夏夜景 岸亮太郎



五線譜の音符のような月うさぎ 根岸智子

まだ青い隣の彼と過ごす秋 中川真実



家族とはいちばん密な夏休み 河村莉帆

入 選

【ジュニアの部】

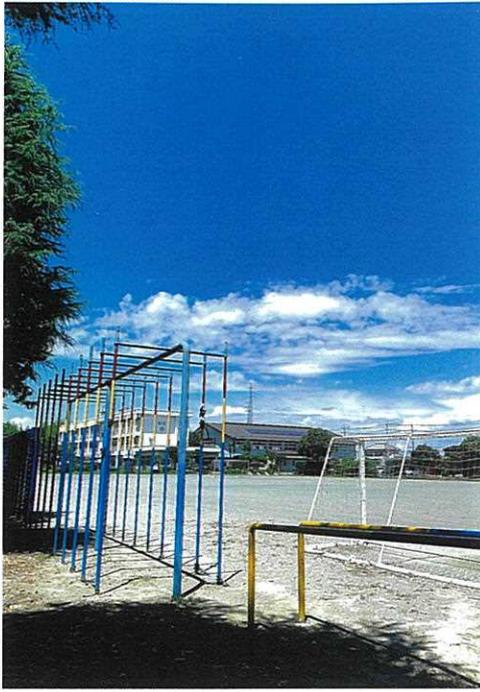


まーだだよはずかしがりやの花みつけ 岩田鈴音



川あそび石のせいれつ前ならえ 永吉瑛真

暑い夏みんなの帰りを待っている
大島飛祐



来年は山車引く父を見れるかな
飯田恵都



駅前のむく鳥だけがさわぐ夏 谷 芽在



幸せを見つけられるまで終われない 竹内咲葉



こぼれ種夏のおわりに咲く心 増田衣桜



つゆきりママにあげたいイヤリング 宮城叶椰

～お知らせ～

このたびのコンテストにつきまして、下記のとおり表彰式を行います。

○日時 令和3年12月19日（日）14：00～

○会場 熊谷市立文化センター4階 第一講座室

※このチラシは1,500枚制作し、制作費用は1枚当たり15円です。

～作家・森村誠一が選ぶ～

第10回くまがや「写真俳句」コンテスト

森村誠一氏 賛助出品作品

— 写真で記録、俳句で記憶、写真俳句は日常から始まる —



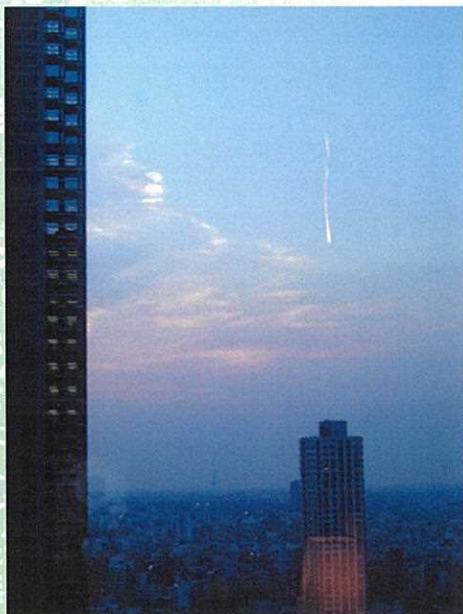
梅が香を煮つめる藍や星を溶く



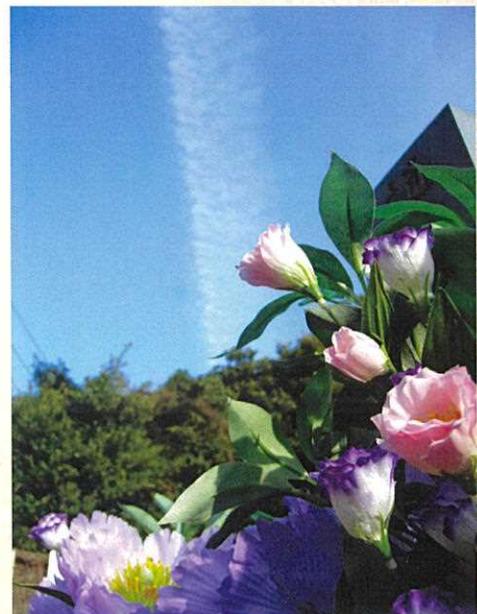
風走る照らす者なき商店街



またの日もありと思へと鯛雲



飛行雲夕陽を浴びて燃え尽きぬ



花の香と競い立ちたり雲の丈

写真俳句とは

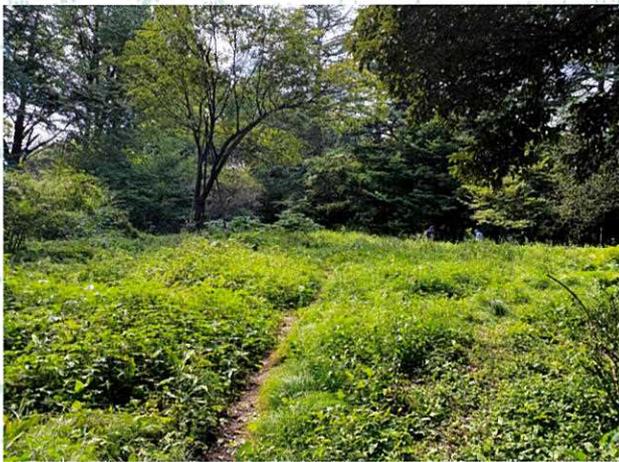
写真と俳句、写真と川柳など五七五の十七音からなる日本語の定型詩を組み合わせた新しい表現世界です。俳句だけでは伝えられない、写真だけでは伝わらない、そんなイメージの世界を創り上げるのが写真俳句です。



初デート二人分の実りあり



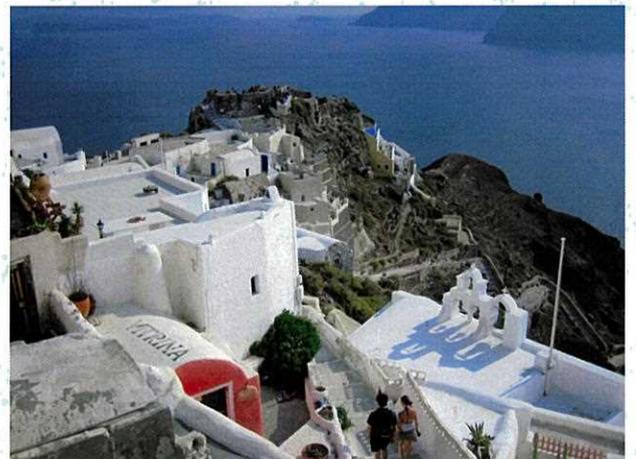
帰り道泣くか泣かぬか秋曇り



清々と息つきたきや現代人

本郷恵理（写真俳句連絡協議会 審査員）
祖母の影響で俳句をはじめ、コンテスト
を契機に森村誠一氏に指導を受けている。
吟色想句 本郷恵理の旅する写真俳句
<https://giniro-soku.com/>

斎藤牧子（写真俳句連絡協議会 審査員）
小説講座受講時、森村誠一に写真俳句の
才能を見いだされ森村氏に師事している。
吟行恋句 斎藤牧子の恋する写真俳句
<https://saito-makiko.com/>



吹きすさぶ高きに登り小宇宙



喧噪もリズム刻んで春の宵



秋雨やエスプレッソのよく似合ひ